

患者さん中心の透析医療を追い求めて。

ONE!

Kokuradaichi hospital

2023
VOL. 012
SEPTEMBER



ONE!
012

2023年9月16日
腎臓内科医 河野医師特集



小倉第一病院 思い出の一丁目一番地

私のONE!



看護部 副看護部長

長江 美咲紀

プロフィール

進路をいきなり看護師に変えたことを親に告げていなかったため、三者面談で凄く冷や汗をかいたことを思い出します。結果良かったけど(笑)
1994年 看護師免許取得後、同年小倉第一病院入職

小倉第一病院が私にとって1番だって思うんです

1日のうち8時間、仕事をしています。通勤時間を含むと、私の時間のかなりの範囲を占めています。その『仕事』が楽しくなければ、私の人生楽しくないと思っています。小倉第一病院で『仕事』をしていて、たくさんの善い事に出会いました。一番大きな事は、ある患者さんからの言葉で、自分の存在価値を知れたことです。小倉第一病院で過ごす中、心が浮かれたり沈んだり考え込んだりすることがありますが、その時の言葉を思い出すと「ここにいていいんだ」と落ち着きます。『仕事』をしていて迷う事もありますが、声に出して言うとなりが助けてくれます。他職種なのに距離が近くて暖かい。10年前にいきなり透析室に異動になった私を支え続けてくれる皆さんは素敵です。私にとってスタッフ・患者さんが近くていつも助けてくれている...その小倉第一病院で『仕事』が出来る事が本当に幸せだと思っています。



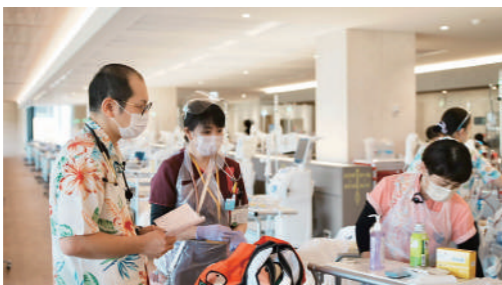
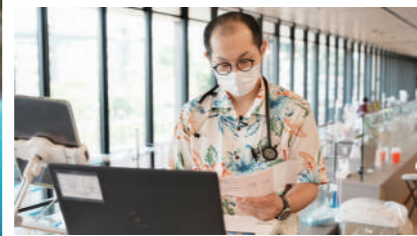
医療法人真鶴会 小倉第一病院

〒803-0846 福岡県北九州市小倉北区下津1丁目12-14
TEL:093-582-7730 FAX:093-592-7689

【今回の特集】2023年4月より新たに着任された腎臓内科医 河野広貴先生。愛媛の田舎に生まれ北九州に移住。研修医の頃に腎臓内科医を目指してから小倉第一病院に至るまでのお話を伺いました。

◎表紙イラストレーター／尚味

発行／小倉第一病院



INTERVIEW

4月着任 腎臓内科医 河野 広貴

—先生どちらのお生まれなんですか？

河野 先祖代々、愛媛の田舎出身です。小学校の同級生は6人で、今は限界集落となっているくらの田舎です。

—小さい頃はどんなお子さんでした？

河野 悪さをよくする元気な子供でした。

—医学の道を目指したのはどういった経緯ですか？

河野 高校生まで将来のことは特に考えていなくて、夏休みに職業の本を読んだときに医者が目に留まりました。世の中には色々な仕事がありますが田舎の閉鎖的な環境でしたので仕事には詳しくありませんでした。それでもやっぱり医者って言うとうすいいな、やりがいもあるなとイメージでき、ちょうど理系で勉強も得意だったので医学の道を目指そうと思いました。

—医学部はどこに進まれたんですか？

河野 地元（といっても車で2時間かかる距離ですが）愛媛大学です。部活に力を入れた学生生活でした。柔道部に入り中四国医学部の大会では団体戦で優勝することができました。

—医学部を卒業されて最初はどちらに行かれたんですか？

河野 最初は愛媛大学の初期研修プログラムを選択しました。研修はたすぎがけシステムを利用して、1年目は松山赤十字病院で、2年目は愛媛大学病院で研修しました。松山赤十字病院は九州大学から派遣された先生が多く、診療レベルも高く刺激を強く受けました。そこがすごい楽しかったですね。研修医もやる気のあふれる頭のいい人が揃っており、とても勉強になりました。

—なぜ腎臓内科医を目指したんですか？

河野 元々透析を診たいと思っていました。愛媛県は泌尿器科が主に透析を診ているので漠然と泌尿器科に入ろうと思っていました。ただ、初期研修先の松山赤十字病院では腎臓内科が透析を診てい

難しい合併症の診断・治療を行っている姿に憧れを抱くようになりまして。あまりのレベルの高さに自分では無理だな、と諦めたときもありました。しかし、その後の研修生活でどうしても腎臓内科で感じた憧れを超える出来事がなく、やはり透析管理は内科医としてやろうと決め腎臓内科を選びました。

—どうしてそこまで透析に興味を持たれたんですか？

河野 それがあまり覚えていなくて、大学2年の生理学で腎臓の尿細管を学んでなんとなく面白いな、くらの記憶があります。いつからか腎臓に興味があり、その機能を補う透析に惹かれていたようです。

—愛媛大学の次のキャリアは？

河野 愛媛県には腎臓内科が透析を診れる病院が少ないので、松山赤十字病院の先生の紹介で3年目から製鉄記念八幡病院で働くことになりました。後期研修医という形で採っていただきましたがその後も勤務させていただき、計8年間腎臓内科を学ばせていただきました。

—愛媛から福岡に行くという時はあまり迷いはなかったですか？

河野 とても迷いはありました。田舎出身の自分からは愛媛大学がある場所すら大都会で（他の人は「田舎というけれど」、そこよりも福岡はさらに都会です）ので不安はありました。ですので福岡市に行くよりは北九州市が良いと思い、そちらを紹介してもらいました。北九州をとても気に入りましたので永住を決め、今年から小倉第一病院で働かせてもらっています。

—小倉第一病院のご縁というのはどういった経緯だったんですか？

河野 元々、水曜日の夜に透析患者さんの回診のお手伝いをしており、そこで中村院長先生とは面識がありました。製鉄記念八幡病院から転勤するときに北九州市内でどこが良いか考えたときに、規模が大きくて手術もでき、やりがいのある病院は、ここしかないと思っていました。

働きたいことを院長先生に相談したところ快諾していただきました。

—小倉第一病院の雰囲気はいかがですか？

河野 職員同士の仲が良く、福利厚生もしっかりしており職員の心に余裕があると思います。とても良い雰囲気の仕事ができています。

—自分の技術は、小倉第一病院で活かすことができているんですか？

河野 これまで透析患者が入院になったら基本的に腎臓内科が介入していましたが、ひと通り全身のことも診れますので習得してきた知識・経験を活用できています。手技や手術も得意だったので、今までよりさらに安全安心な透析ができると思います。

—今後、小倉第一病院での希望とか夢とかあったら教えてください

河野 小倉第一病院の職員になりましたので、この病院が大切にしていることをしっかりと守りながら働きたいです。コンセプトの「透析患者の完全社会復帰」を目指し、適切な透析管理を行い患者さんの私生活を充実させていきたいです。病院や職員のためにも、もちろん自分のためにも、この病院がさらに発展していくようにしっかりと働いていきたいです。

腎臓内科医 河野 広貴

出身大学: 愛媛大学医学部

【経歴】
2013年4月 松山赤十字病院 初期研修
2014年4月 愛媛大学医学部附属病院 初期研修
2015年4月 製鉄記念八幡病院 腎臓内科
2023年4月 小倉第一病院 腎臓内科

〈資格〉
日本内科学会 認定内科医
日本腎臓学会 専門医
日本透析医学会 専門医
日本透析医学会 VA血管内治療認定医

インタビュー動画は
コチラで見れます。

